

芸術コースにおける音楽指導の実践

卒業演奏を通して

〇〇〇立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇(音楽科)

1 はじめに

高校は「芸術コース」があり、芸術(音楽・美術・工芸・書道の4科目)において2~3年生で少人数学習によるきめ細かな授業を展開している。2年生で4単位、3年生で6単位の芸術の授業があり、様々な芸術技能を身に付けるとともに、個性を伸ばし感性を磨くことを目標としている。

芸術コースというと芸術関係の進学を目指す生徒たちの集まりをイメージするのが一般的かと思われるが、本校の場合はそうではない。芸術コースの音楽選択生徒たちの多くは「楽譜が読めるようになりたい」「音楽関係の進学や就職を考えている」「いろいろな楽器を体験したい」等の希望を持っているが、正直なところなかなか思うように進めることができない生徒が多い。それでも芸術コースに入ると、全員が高校三年間の音楽の学習を生かして「卒業演奏会」のステージに立ち、多くの人々の前で演奏という経験をする。

今回教科研究員をさせていただくにあたり、本校の芸術コースでの活動を通して、私がどのような音楽指導を実践してきたかを振り返りたいと思う。そして、高校三年間での芸術の授業を通して、豊かな情操を養い、生涯にわたり芸術を愛する人間を育てるには、音楽の教師として何ができるかを考察したいと思う。

2 高校の芸術コースの概略

(1) クラス数・生徒人数

第2学年と第3学年に1クラスずつ芸術コースがある。音楽・美術・工芸・書道の選択者が約10名ずつで合わせて40名の1クラスを編成する。第1学年の1学期後半に生徒の希望調査を実施し、芸術科と当該学年との調整により2学期後半を目安に次年度の芸術コース生徒を決定する。

(2) 教育課程(芸術に関するもの)

学年	音楽選択者		美術・工芸・書道 選択者
1年	音楽 (2単位)	2単位	美術・工芸・書道 (各2単位)
2年	音楽 (2単位) 音楽表現(2単位)	4単位	美術・工芸・書道 (各2単位) 美術表現・工芸表現・書道表現(各2単位)
3年	音楽 (2単位) 卒業演奏(4単位)	6単位	美術・工芸・書道 (各2単位) 卒業制作(各4単位)

(3) 芸術コースの校内での位置付け

本校では「千葉県で認可された唯一の芸術コースがあること」を学校の大きな特色として、近隣の中学校にも紹介している。但し、本校のような芸術コースを学校の目玉とするには、芸術の他科目の先生方との連携が大切であり、芸術科の様々な活動に関して学校全体や各学年の先生方

からの理解や協力を得ることも重要である。そのためには芸術科の教員が教科指導のみならず、クラス担任や分掌の仕事、部活動にも積極的にに関わり、学校全体に貢献する努力が必要であると感している。そのようにして、芸術コースを芸術科のものではなく、学校全体のものとして認めていただくことが大事である。

(4) 芸術コース校外学習について

本校では年に2回の芸術コース校外学習を実施している。生徒は二年間の芸術コースの学習の中で4回の校外学習に参加する。目的は、本物の芸術に触れる機会を与えることにより芸術への理解を深めることである。高校生が自分から演奏会や美術などの展覧会に出かける機会は少ないので、芸術コースの行事としてこのような体験をすることは芸術鑑賞における良いきっかけとなると思われる。

校外学習の行き先や内容は、その都度芸術科の教員4名で企画しており、生徒に後日レポートを提出させる。

平成12年度から平成19年度まで、校外学習で行った所は下記の通りである。

〔美術館〕

東京国立近代美術館 東京国立博物館 東京都美術館 千葉市美術館 川村美術館 など

〔音楽会〕

劇団四季「ライオンキング」 国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」 帝国劇場「オペラ鑑賞教室」
オペラ歌手（藤原歌劇団・二期会）を招いた音楽鑑賞会 など

〔その他〕

鎌倉散策 笠間（陶芸・手びねり体験）

(5) 芸術コース年間計画の例 (高校 芸術コース 平成19年度のもの)

4月	入学式・・・芸術コース3年生音楽選択者・演劇部・合唱同好会による校歌披露
5月	芸術コース校外学習・・・東京国立近代美術館・歌舞伎鑑賞教室（国立劇場） 1年生コース希望調査・・・芸術科は生徒に芸術コースの内容説明・声かけ
6月	次年度芸術コースの人数調整開始
7月	卒業制作展覧会・卒業演奏会の会場申込み 中学生一日体験入学・・・芸術コースパンフレット配布
夏休み	作品制作・演奏練習
9月	次年度芸術コースの生徒ほぼ決定（12月くらいまでは多少変更有）
10月	
11月	中学生一日体験入学・・・芸術コースパンフレット配布 芸術コース校外学習・・・千葉市美術館・ソプラノ独唱会 地区高校連合音楽会・・・音楽選択者はハンドベル演奏で出演
12月	作品制作・演奏練習
冬休み	卒業制作展覧会・卒業演奏会【校内発表・音楽室 他】
1月	” 【校外発表・さわやかちば県民プラザ】
2月	
3月	

3 音楽指導の実践

(1) 年間指導計画(平成19年度のもの)

音楽 (1年生:コース分けなし) 2単位

学期	歌唱	器楽	楽典
1	校歌 ポップス	アルトリコーダー 奏法の基礎	高音部譜表の 譜読みドリル
2	芸術歌曲 映画音楽 ミュージカルの歌	中・低音域及び派生音・高音域の練習	低音部譜表の 譜読みドリル
3	世界の歌 日本の歌	クラシックギター 奏法の基礎 メロディーと伴奏	音符・休符, 拍子 の種類と仕組み

音楽 (2年生:芸術コースと他コース選択者の合同) 2単位

学期	歌唱	器楽	ソルフェージュ
1	青春と音楽	リコーダーアンサンブル (ソプラノ・アルト・テナー・バス)	・コールユーブンゲン ・合唱のためのたのしい エチュード または 混声合唱のための ア・カペラエチュード
2	芸術と音楽	ギターアンサンブル(四重奏)	
3	民族と音楽	箏曲(奏法の基礎 二重奏)	

音楽表現(2年生:芸術コースのみ) 2単位

学期	器楽	楽典	行事
1	ハンドベル(奏法の基礎 合奏)	音楽記号ドリル	校外学習
2	ハンドベル(合奏)	音楽記号ドリル	校外学習 地区音楽会
3	リコーダーアンサンブル 又は 合唱	まとめ問題	卒業演奏会・展覧会

音楽 (3年生:芸術コースのみ) 2単位

学期	グループまたはソロ演奏	ソルフェージュ
1	発表内容・曲目の決定 楽器等の準備, 基礎練習など。	・コールユーブンゲン ・合唱のためのたのしいエチュード 又は 混声合唱のためのア・カペラエチュード
2	グループ別練習 2学期中に仕上げ。通し練習。	
3	リハーサル 卒業演奏会	

卒業演奏(3年生:芸術コースのみ) 4単位

学期	歌唱 及び 器楽	ソルフェージュ	行事
1	合唱・合奏 これまでに練習した曲を中心に, 卒業演奏会の選曲をしながら練習。	・コール ユーブンゲン ・合唱のための たのしいエチュード 又は 混声合唱のための ア・カペラエチュード	校外学習
2	プログラムの決定 パート練習・全体練習・通し練習 司会・ステージ配置などの決定		校外学習 地区音楽会
3	リハーサル・本番・反省会		卒業演奏会

(2) 指導の内容

ア 合唱について

合唱は、発声・音程・音色・表現・各パートのバランスなど指導にかなりの時間を要する。本校の生徒の場合、合唱部員や経験者が少ないのでなおさらである。生徒を飽きさせず、しかも授業という限られた時間で仕上げなければならないため、工夫が必要である。

そこで私は「合唱の練習は短時間で回数を多く」を心がけている。毎回の授業は最初の20～30分の歌の練習から始める。まず、コールユーンゲンで音程・リズム・拍子のとり方を確認しながら声を出す。そして、教科書の歌や松下耕作曲の「合唱のためのたのしいエチュード」又は「混声合唱のためのア・カペラエチュード」(音楽之友社)を歌う。1回1回の進みは遅いが少しずつ何度も練習することにより、前回の練習内容をあまり忘れずに積み重ねることができる。松下耕先生の合唱エチュードは、短くてシンプルかつア・カペラ合唱に必要なハーモニー感覚や表現がふんだんに盛り込まれ、エチュードといえども演奏会レパートリーとしても十分な作品と思われる。

イ リコーダーアンサンブルについて

リコーダーは音楽で全員がアルトリコーダーを学習する。最近では中学校でアルトリコーダーを学習していない生徒が増えている。従ってまさに基礎基本から始めるのであるが、教材には最初から二重奏のものを扱っている。アンサンブルにつなげていくため、常に相手のパートの音を聴き、合わせることに慣れさせるというねらいがある。ちなみに本校で使用している教材は「RECORDER 1 アルトリコーダーのためのアンサンブル曲集」(ヤマハ音楽振興会)である。

音楽では、ソプラノ・アルト・テナー・バスを取り入れたアンサンブルをする。生徒は小学校でソプラノリコーダーを経験しているので、「ソプラノとテナーは同じ指、アルトとバスは同じ指！」と言うとあまり抵抗なくテナーやバスにも挑戦してくれる。最初はなるべく各パート間のリズムが単純でそろっている曲から始め、生徒には難しいと感じさせず、重厚なハーモニーを心地よく感じる事ができればよいと思う。

3年生の芸術コースではいよいよ木製の楽器を使用する。まずは、生徒に高価な楽器であることを強調し、手入れの仕方を説明し、大切に扱わせる。木製リコーダーの暖かみのある素朴な響きを味わいながら、レパートリーを広げていく。

ウ 楽典について

楽譜が読めず苦手意識を持つ生徒が多いので極力難しいことは避ける。必要最低限のことを覚えさせる。授業の始めの10分程度で、音楽では音楽の基礎学習プリント「書いて覚える徹底！！譜読」(ドレミ楽譜出版社)、2年生の芸術表現では音楽の基礎学習プリント「書いて覚える徹底！！音楽記号」(ドレミ楽譜出版社)を実施する。コールユーンゲンや練習する曲を通して必要な事柄をその都度説明する。

エ ハンドベルについて

ハンドベルは前任の音楽の先生が指導されており、それを引き継いで指導している。ハンドベルを所有する学校が少ない中、本校には幸い3オクターブのハンドベルの他に専用のテーブルやマットが揃っている。初心者が10名前後のグループで演奏するには十分なセットである。ハン

4 指導実践例

学 習 指 導 案

- (1) 教科・科目 芸術科 音楽表現
 (2) 日時・場所 平成19年11月2日(金) 2～3限 音楽室
 (3) 対象クラス 2年組(芸術コース) 音楽選択者 男子 名 女子 名 計 名
 (4) 学 級 観

素直で落ち着いた生徒が多い。音楽に関する基礎的な知識は多少不足しているが、芸術コースなので音楽が好きな生徒ばかりである。ハンドベルは1学期から練習を始めたが、全員が初めての体験なので同じスタート地点から学ばせることができた。なかなか体験できない楽器なので、興味を示した生徒が多く、楽しく意欲的に取り組んでいる。

- (5) 題 材 ハンドベルを演奏しよう。
 (6) 教 材 「Thanksgiving Celebration」
 Johann Cruger 作曲 D.Linda McKechnie 編曲
 (「ハンドベル演奏の手引き：D.L.マッカーニー著 千葉 佑 訳」より)

(7) 指導目標

- ・ハンドベルの美しい音色と演奏する楽しさを味わう。 ・楽曲の構成を理解して演奏する。
- ・皆で一つの曲を作り上げることにより、チームワークを高めアンサンブルの楽しさを味わう。
- ・発表会を通して、演奏者としてのマナーを身につける。

(8) 指導計画

- 第 1～2時 リズム練習 パート分け 各自の音を楽譜で確認。
 第 3～4時 リズム練習 前半部分(22小節目まで)の合奏練習
 第 5～6時 音階・和音の練習 後半部分(23小節目から)の合奏練習
 第 7～8時 リズム・音階の練習 楽曲の形式を理解して演奏する。(2部形式)
 第 9～10時(本時) リズム・音階・和音の練習
 楽曲の構成および主旋律と伴奏(和音)を理解して演奏する。
 第11～12時 リズム・音階・和音の練習 強弱等をつけて表情豊かに演奏する。
 第13～14時 まとめ 及び 演奏会での行動とマナーについて
 第15～16時 発表(地区高校連合音楽会で演奏する)

- (9) 本時の目標
- ・曲の形式を理解する。前奏 - A - B (2回) - 後奏
 - ・主旋律と和音を理解して演奏する。

(10) 観点別評価

評価の観点	評価の内容	評価方法
【観点1】 関心・意欲・態度	ア ハンドベルの音色や奏法に関心を持ち、アンサンブルの楽しさを味わおうとしている。 イ 演奏会での発表を意識して、練習に取り組んでいる。	準備・演奏・片付けを通して、学習活動の様子を観察する。

【観点2】 芸術的な感受や 表現の工夫	ア ハンドベルの美しい音色を感じ取り，よく響かせるための奏法を身につけ工夫している。 イ 楽曲の構成を理解して，音楽の流れを大事に演奏している。 ウ 自分の担当した音の曲の中での役割（旋律と伴奏など）を理解して，音色や音量を工夫している。	生徒一人一人の音色を聴き，演奏する様子を観察する。また，楽譜への書き込み等が適切にされているかを，観察したり発問したりする。
【観点3】 創造的な 表現の技法	曲のイメージにふさわしいハンドベルの音色を出すための奏法を身に付けている。	生徒一人一人の取り組みの様子を観察するとともに，曲全体の仕上がりをよく聴く。

(11) 本時の展開

	学習活動	指導内容	指導上の留意点
導入 (30分)	挨拶 出席確認 音楽記号ドリル ハンドベルの準備	本時の予定を説明する。 問題を各自で解かせる。 終わった生徒は提出させる。 楽器，テーブル，譜面台等のセッティングと各自の演奏準備をさせる。	わからない問題は教科書や前回のプリントを参照させる。 全員で協力しながら手際よく，なるべく短時間で準備をさせる。
展開 (20分)	リズム・音階・和音 練習 Thanksgiving Celebration 合奏(前回の復習)	正確なリズム・音の移り変わり・和音の響きに気をつけながら基礎練習を行う。 通して演奏させる。	姿勢，ベルの動きや音色に注意しながら練習する。 間違えてもなるべく止まらない。 演奏会を意識して演奏させる。
休憩時間 10分			
(35分)	楽曲の形式を理解する。 主旋律を理解する。 合奏(練習)	前奏と後奏のついた2部形式(A B)であることを理解させる。プリントにより明示する。 自分の担当している音が主旋律であるか，伴奏(和音)であるのかを理解させる。 プリントにより明示する。 各部分ごとに区切りながら練習させる。	各自の楽譜にも書き込んであるかを確認させる。【観点2-イ】 同じ音でも主旋律であるかないかにより，他の音とのバランスを考えて音量が変わってくることに気付かせる。【観点2-ウ】 曲の構成を理解しつつ，主旋律が引き立つように演奏させる。
まとめ (15分)	合奏(通して演奏) 次回の予定の確認 後片付け 挨拶	演奏会本番のつもりで通して演奏させる。 今後の日程を説明する。 後片付けをさせる。	間違えても止まらない。 姿勢を良くして，見た目にも美しく。【観点1-イ】 全員で手際よく片付けさせる。

5 卒業演奏会について

(1) 練習計画 (3年生 6単位分の時間配分)

	月曜日	水曜日	金曜日
5限	コールユーブンゲン・合唱 (最初の30分程度)		
6限	個人練習・グループ練習	リコーダーアンサンブル	ハンドベル

1～2学期は、このメニューで指導する。3学期は、2時間続きで通し練習やリハーサルや行う。

(2) プログラムの組み方

ア 合唱

その年の生徒の声質や能力に合わせて3～5曲程度選曲する。

イ リコーダーアンサンブル

3曲程度選曲する。時には打楽器やギターなどを加えるなどの工夫をする。

ウ ハンドベル

人数が9～11人なら30～35音程度の曲も演奏可能、3曲程度準備する。

7～8名ならば20音前後の小規模な曲で曲数を少し多めにする。

変化奏法の入った曲を入れると、見た目にも楽しめる。

例 Mart. (マルテラート：ハンドルをしっかりとったベルを軽くテーブルに叩きつける)

Shake (シェイク：手首の力を抜いて細かくベルを振り鳴らす) など

エ 個人・グループ発表

生徒の希望を生かした演奏のコーナー。ここで和楽器(箏曲)の演奏を何とか組み込む。



写真：平成17年度 「第10回 芸術コース卒業制作展覧会・卒業演奏会」 より
音-3-8

オ プログラム例

千葉県立 高等学校 芸術コース 第11回 卒業演奏会

平成19年1月20日(土) 13:00開演 14:15終演

さわやかちば県民プラザ ホール

《音楽選択者11名:男子3名 女子8名》

男声3重唱(ピアノ伴奏:宇佐美):男子3名

「夜空ノムコウ」 スガシカオ 作詞/川村結花 作曲/橋本祥路 編曲

独唱(ピアノ伴奏:生徒):女子

「LOVIN' YOU」

Richard Rudolph and Minnie Riperton 作詞・作曲/Chiaki Teranishi 編曲

アルトサクソフォン独奏(ピアノ伴奏:宇佐美):女子

「セレナード」 ハイドン 作曲

マリンバ独奏(ピアノ伴奏:宇佐美):女子

「Under The Sea ~リトル・マーメイドより~」

A.メンケン 作曲/森垣桂一 伴奏編曲

ピアノ独奏:女子

「A列車で行こう」 Billy Strayhorn 作曲

箏曲:女子4名

「薫る花」 衛藤公雄 作曲

リコーダーアンサンブル:全員+宇佐美

「パヴァーヌ」 作曲者不祥

「パヴァーヌ(戦い)」 スザート 作曲/吉沢実 編曲

「グリーンスリーブス」 イングランド民謡

ハンドベル:全員

「天国と地獄」 オッフェンバック 作曲/大石由紀子 編曲

「ハイドンのびっくりシンフォニー」 ハイドン 作曲/Kevin McChesney 編曲

「夕やけ こやけ」 草川信 作曲/大塚安宏 編曲

合唱:全員「草原情歌」 中国民謡/清水雅彦 編曲

「茉莉花」 中国民謡/宇佐美典子 編曲

「一番はじめは」 わらべうた/信長貴富 編曲

「新しい世界へ」 名和田俊二 作詞・作曲



(3) 卒業演奏会の運営と役割分担

ア 司会(2名)

音楽選択者又はクラスの中から生徒を選出する。曲目紹介の文章はできるだけ生徒に考えさせる。

イ セッティング(5~6名)

音楽選択者以外のクラスの生徒に依頼する。

ウ 会場受付(4名程度)

音楽選択者以外のクラスの生徒に依頼する。

エ ポスター・案内はがきの作成及び広報活動

ポスターと案内はがきの作成は芸術科教員が行う。

秋の中学生一日体験入学で配布したり、高柳駅や駅周辺の店に掲示をお願いしたりする。生徒は2学期末の短縮日課を利用して出身中学校へ持参する。郵送もする。

オ プログラム(出品目録)の作成

芸術科教員が作成する。「千葉県立 高等学校 芸術コース 第 回 卒業制作展覧会・卒業演奏会」として、校長挨拶と共に音楽・美術・工芸・書道の全ての選択生徒名と作品名及び演奏曲目を一つのプログラムにまとめる。また、展覧会場及び演奏会場にアンケートを置き、一般の方々の感想や意見を伺い、次回への参考とする。



授業風景 : ハンドベル



授業風景 : 箏曲



授業風景 : 合唱



校外学習 : 笠間(陶芸手びねり体験)

6 生徒アンケート結果を通して

(実施日：平成19年6月29日 対象：芸術コース音楽選択者 名)

Q1 あなたはなぜ芸術コース(音楽)を選択しましたか。(複数回答可)

- 多い順 ア．楽譜が正確に読めるようになりたいから。8人
イ．将来、音楽関係の進学や就職を考えているから。7人
ウ．歌が得意だから。又は得意な楽器があるから。5人
エ．お琴やハンドベルなどやったことのない楽器をやってみたいから。5人
オ．勉強より音楽の授業が多いほうが楽しいから。4人
カ．校外学習で美術館や音楽会の鑑賞ができるから。4人
キ．その他(なんとなく。2名 友達に誘われた。1名)
ク．音楽(1年生)の授業が楽しかったから。0名
ケ．みんなで合唱や合奏をやりたいから。0名
コ．多くの人に自分たちの演奏を聴いてもらいたいから。0名

皆で合唱や合奏することに意欲的な生徒は少なく、個人的なレベルで音楽に興味がある、音楽を楽しみたいという生徒が多い。他教科の勉強より楽しそうという安易な理由も少なくない。

Q2 高校に入学した頃、あなたはどのくらい楽譜が読めましたか。

- ア．ト音記号の音符もヘ音記号の音符も読める。6名
イ．ト音記号の音符は読めるが、ヘ音記号の音符は読めない。9名
ウ．ト音記号もヘ音記号も読めない。3名

Q3 現在、あなたはどのくらい楽譜が読めますか。

- ア．ト音記号の音符もヘ音記号の音符も読める。7名
イ．ト音記号の音符は読めるが、ヘ音記号の音符は読めない。9名
ウ．ト音記号もヘ音記号も読めない。2名

アンケート結果からは成果がないように見える。しかし実際は3年生になっても楽譜に「ドレミ」を書き込む生徒が多く、ほとんどの生徒は教員が読まなくても自力で「ドレミ」を書くことができるようになる。

Q4 今までに音楽関係の習い事をしたことはありますか。内容と期間を書いてください。

- ある 7名 歌 2名(中学1年~中学3年)(3歳~7歳)
エレクトーン 1名(4歳~現在)
ピアノ 3名(幼稚園~小学2年)(小学1年~小学3年)
ドラム 1名(小学5年~中学2年)

ない 11名

Q5 今までに音楽関係の部活動(クラブ)の経験はありますか。内容と期間を書いてください。

- ある 12名 吹奏楽 9名(小学校で2名)(小・中学校で3名)(小学校~現在1名)(不明3名)
合唱 3名(中学校で2名)(高校で1名) 音楽部 1名(小学校で)

ない 6名

音楽関係の習い事や部活動の経験者はいるが、小学生の時間が多く中学まで続けた生徒は少ない。本校での部活動加入率も低く、全校生徒 名で吹奏楽部 名、合唱同好会 名という現状である。(平成19年11月現在)

Q6 将来の進路希望は何ですか。できるだけ具体的に書いてください。

音楽関係 6名 音楽専門学校 3名, ビジュアル系ロックバンド 1名, アニメソング歌手 1名,
照明・音響 1名

その他 12名 事務 3名, 調理師 2名, 自動車整備 2名, 力仕事 1名, 美容関係 1名,
トリマー 1名, 声優 1名, 就職 1名

希望はこのようになっているが、実際に卒業後音楽関係に進む生徒はほとんどいない。

Q7 芸術コースに入って楽しいと思う活動は何ですか。(複数回答可)

【2年生】	コールユーブンゲン	0名	【3年生】	コールユーブンゲン	0名
	合唱	7名		合唱	2名
	ハンドベル	4名		ハンドベル	3名
	リコーダー	2名		リコーダー	0名
				箏曲	3名
				個人・グループ練習	5名

やはりコールユーブンゲンのような訓練的な活動より、皆で歌ったり楽器を演奏したりという楽しい活動が好きである。3年生になると自分たちで決めた題材で個人・グループ練習ができるので、それが楽しくなるようである。

Q8 芸術コースでの学習で身に付けたいことはなんですか。(自由回答)

いろいろな楽器を演奏できるようになること。5名
歌が上手く歌えるようになること。5名
楽譜が読めるようになること。5名
正しい音程がとれるようになること。音程を耳で聴き取れるようになること。4名
音楽に関する知識。2名
音楽の楽しさやおもしろさ。1名
即興性 1名

Q9 芸術コースに入って良かったと思うことは何ですか。(自由回答)

いろいろな楽器に触れることができ楽しい。6名
歌について関心が深まった。歌が楽しい。3名
音楽に関する知識が多少身についた。2名
楽譜が正確に読めるようになった。2名
校外学習で美術館などに行かれる。2名
個性の違う人と一つのものに向かって取り組めること。1名
ハンドベルを通してみんなで一つになる協力性が持てたこと。1名
合唱や合奏の楽しさが味わえた。1名 音楽に触れられた。1名
音楽ができる。音楽が好き。1名 頑張ろうと思うようになった。1名
友達と仲良くなれた。1名 暇が増えた。1名

芸術コースでの学習により、いろいろな楽器を演奏することや歌が上手くなることを期待している生徒が多く、その希望は概ねかなえられているようである。音楽活動を通して「個性の違う人と一つのものに取り組める」「皆で一つになる協力性が持てた」「頑張ろうと思うようになった」という言葉が、生徒自身から出てきたことには驚いたが、音楽教員として苦労してやってきた甲斐があった、と思える嬉しい言葉である。

7 生徒の感想文より

- 二年間を終えてすごく勉強になった。ハンドベルとかリコーダーアンサンブルなどみんなで協力して演奏してすごく楽しくできた。私は芸術コースの音楽を選択したことによって、もっと音楽が好きになった。
- 卒業演奏の前は一人でフルートやって大丈夫なのかなと思ったが、最後の演奏なので頑張った。結果は間違えたりしたが、終わったらなぜか達成感があった。雪が積もる中、たくさんの人が県民プラザに聴きに来てくれて本当にうれしかった。
- ハンドベルは最初みんなとなかなか合わせることができなかったが、だんだん呼吸が合っていて上手くなったと実感した。地区音楽会にも参加し充実していた。卒業演奏会も良いものになった。これから先、こんなに音楽に携わることはないと思うのでいい経験になった。
- 音楽の歴史などを勉強するより、実際に体を動かして音楽を勉強するのはすごくいい。この芸術コースは しかやっていないすばらしいものだ。
- 卒業演奏会では、二年間の日々の頑張りを真剣に見てもらえてよかった。悔いのない一日にできてよかった。大好きな音楽を高校でもできてよかった。
- 芸術コースとして二年間一緒にやってきた皆とやり遂げた卒業演奏会は、とても達成感があった気持ちのいいものだった。
- 自分ではあまり満足のいくものではなかったが、自分で選んだことだから後悔はしていない。もっと練習したかった。
- もともと音楽が好きで入学したが、やはりこの学校ではレベルが高くないとちょっとがっかりした。でも前よりリコーダーが好きになりアンサンブルが楽しかった。三年間でいろいろな曲が学べて音楽がもっと好きになった。
- ギター・ハンドベル・リコーダーなどの楽器に触れることができて楽しかった。楽譜も読めるようになった。わからないことがたくさんあったが、先生がゆっくり教えてくれてよかった。
- いろいろな楽器に触れたが私は箏が好きになった。練習していくうちにもっと頑張りたいと思うようになった。
- 思い出に残ったことと言えば、やはり先生に怒られたこと。練習をサボろうとして怒られて、忘れ物をしてまた怒られて・・・今となっては良い思い出だ。芸術コースで良かった。
- 芸術コースや部活動で、いろいろな楽器を演奏してたくさんの歌を歌った。この経験を通して、私はやはり歌が好きだと再認識した。ここで学んだことを忘れずに、今後も歌にかかわっていかうと思う。
- 卒業演奏会で一番難しかったのは箏曲だ。皆で合奏するのが大変だったが頑張れて良かった。いつもは人前ですごく緊張するのにこの日は大丈夫だった。それだけ楽しんでできたのかもしれない。
- リコーダーは苦手でやりたくないと思ったが、運指がわかっていくうちに楽しいと思えるようになった。ハンドベルは一人一人が協力しないと良い音色が出せないのが大変だった。合唱はもっとやりたかった。卒業したら音楽に触れなくなると思うので芸術コースで学べて良かった。いつも音楽の授業があったので終わってしまうと淋しい。

8 終わりに

8年前に私は 高校に赴任し、芸術コースという他校にはないものを任せられ最初の2～3年は手探り状態でした。ようやく自分なりの指導パターンが確立できた後も、毎年入れ替わる生徒の性質や能力はさまざまなので、「例年通り」は通用せず試行錯誤の連続でここまでやってきました。教科研究員をさせていただくにあたり、 高校での8年間の実践を私なりに整理し振り返ることができました。

人前で発表する経験がほとんどない生徒たちなので、どんなに準備を万端にしたつもりでも、演奏会の本番では想像もできないような事件が多々起こります。その時は必死でも今となっては笑えるようなエピソードがたくさんあります。(自分の演奏する楽器を客席に置いたまま、ステージに上がってしまった・・・等々)お蔭様で私は、何が起きても生徒の前であたふたしない、慌てず騒がず、という度胸とおおらかさを身につけました。(生徒は些細なことでもパニックし「先生！先生！・・・」と大騒ぎになりますが。)

少人数授業による2年間のコース学習では、否応なしに生徒と先生の関係は深まります。生徒個々の能力に応じた指導ができる絶好の機会でもあります。しかし、個性豊かな生徒たち一人一人とのコミュニケーションを大切にしながら、全体を育てるのはそれなりの苦労と覚悟も必要です。もともと自分になかなか自信が持てない生徒たちなので、私は生徒の演奏する音楽に関しては極力ほめる姿勢で臨んできました。そして、どうしても足りない部分は私が生徒と一緒に演奏し楽しんでできました。生徒の心の中に、「頑張ればできる」という自信や「皆で気持ちを一つにして歌うこと・奏でることの喜び」が芽生えたら大成功だと思います。そして、それが生涯にわたり音楽に親しむきっかけとなり豊かな人生を送ることができたとしたら、音楽の教員としてこれほど幸せなことはいないでしょう。

それぞれの学校の生徒の能力に応じた適切な指導方法を私たち教員は常に模索し続けていますが、私はこれからも音楽を通して人と人との心のつながりを大切に、音楽することの楽しみを生徒とともに分かち合っていけたらいいなと感じています。

